

風音祭も無事終わりました。まず体育祭、台風の様子を見て、9月7日実施に変更したものの、朝は雨。実は教頭時代から百合丘の体育祭はいつも朝が雨でした。それでも中止の経験は一度もなく、今回もグランド状態にも助けられ、実施できました。結果的には暑くなりすぎず、よい体育祭日和だったと思います。部活対抗リレーはカットになりましたが、ほとんどの競技を、生徒たちは懸命に取り組んでいました。100メートル走も僅差のレースが多く、見ごたえ十分。障害物競争では風に揺れるパンをくわえられず四苦八苦している姿が笑いを誘っていました。結果は赤組の総合優勝。競技では差が出ましたが、参加姿勢や演舞、パネルとも甲乙つけがたい内容だったと思います。特に演舞は団長を中心に、団のために、取り決めもきちんと守り、自分たちの体育祭を楽しみ、大切にしている様子がすべてのダンスから感じられ、とても暖かい気持ちになりました。「祭り」だからと「羽目を外して、楽しむ」ではなく、「枠の中で意義を認め、楽しんでいる」その姿は本来の行事の楽しみ方で、これからの子供たちはこうしてひとつひとつきちんと自分のものにしていくのだと感じました。

次は文化祭です。こちらも初日は雨。けれど2日間で来場者は去年並みの3000人を超えました。準備期間が2日に伸びたこともあり、参加団体の飾りつけもよくできていました。焼きそばがとてもおいしかったです。楊枝アート、J-tubeという新しい企画も斬新でした。

風音祭が終わると後期が始まります。終業式では大阪選手の「忍耐」という言葉から、課題・弱みを認め、自分をコントロールし、それを強みに変えていける力こそが「たくましく生きる力」だと話しました。前期の学習からきちんと課題・弱みを探してください。その数が新しい自分へのチャンスの数になります。最初から「できている」思うことは弱みです。できない自分をしっかりと抱きしめられる力をすべての生徒に期待しています。後期の新しい自分に向かって、Go for it!